

# 平成 29 年度 北臨技業務実態調査アンケート結果報告

北海道臨床衛生検査技師会 組織対策部

北臨技「メディプラン 2015」の目標のひとつである組織充実の具体的活動の一環として実行した。

## 要 綱

**【目的】** 各施設の業務実態を探り、職域拡大に向けた傾向と対策を分析する

**【対象】** 平成 29 年 10 月現在、北臨技会員在籍の施設

**【調査方法】** 平成 29 年 10 月 25 日～11 月 30 日の期間で、アンケート質問・回答用紙を郵送配布し、FAX にて回収を行った

**【設問内容】** 施設規模、採血業務、病棟業務、往診・在宅業務、検査説明・相談業務、検体採取業務、認知症関連業務、耳鼻科領域検査について

- 問 1 : 勤務施設分類
- 問 2 : 施設病床数と外来患者数
- 問 3 : 施設従業員数
- 問 4 : 北臨技加入状況と所属部署（検査部門、検査部門以外）
- 問 5 : 検査部門以外の所属の有無
- 問 6 : 検査部門以外での業務内容
- 問 7 : 外来採血実施の有無
- 問 8 : 外来採血実施場所（複数回答可）
- 問 9 : 外来採血患者数
- 問 10 : 外来採血担当技師数
- 問 11 : 病棟採血実施の有無
- 問 12 : 病棟採血患者数
- 問 13 : 病棟採血担当技師数
- 問 14 : 病棟採血時間帯
- 問 15 : 病棟業務の有無
- 問 16 : 病棟業務内容（複数回答可）
- 問 17 : 病棟常駐予定の有無
- 問 18 : 往診・在宅業務の有無
- 問 19 : 往診・在宅業務内容
- 問 20 : 往診・在宅業務の検討内容
- 問 21 : 検査説明・相談業務の有無
- 問 22 : 検査説明・相談業務内容
- 問 23 : 検査説明・相談業務の専任の有無
- 問 24 : 検査説明・相談業務実施場所（複数回答可）
- 問 25 : 検体採取業務の有無

- 問 26：検体採取業務内容（複数回答可）
- 問 27：認定認知症領域検査技師の認定取得予定
- 問 28：認知症関連業務内容（複数回答可）
- 問 29：認知症スクリーニング検査実施職種（複数回答可）
- 問 30：耳鼻科領域生理検査実施内容（複数回答可）

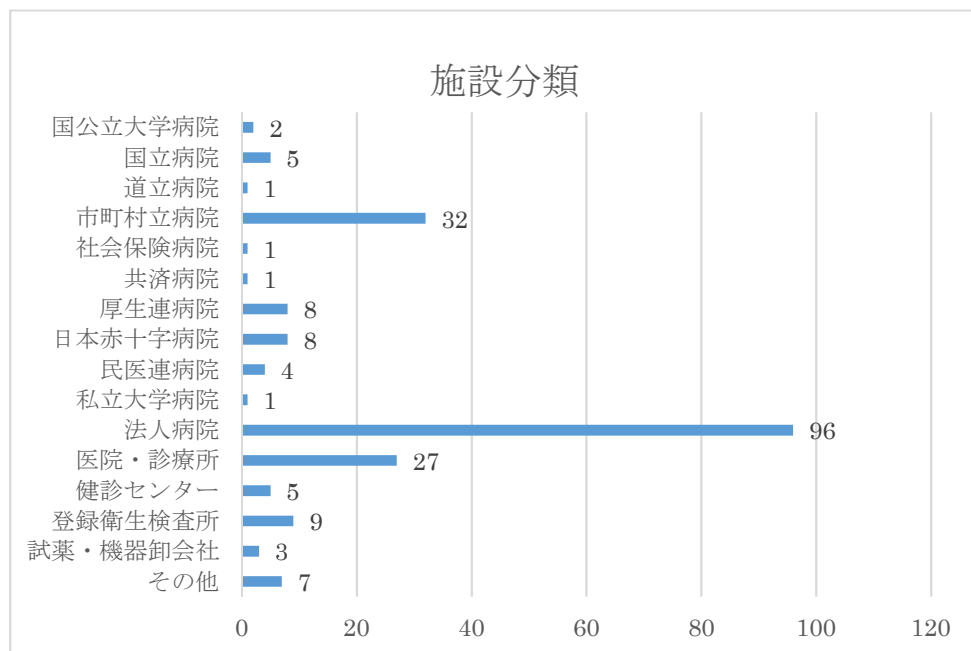
## 集計結果

(※グラフはすべて実数表示です)

【集計数】 回答施設 210 (会員在籍施設 535 回収率 39.3 %)

### 【回答施設の規模内訳】

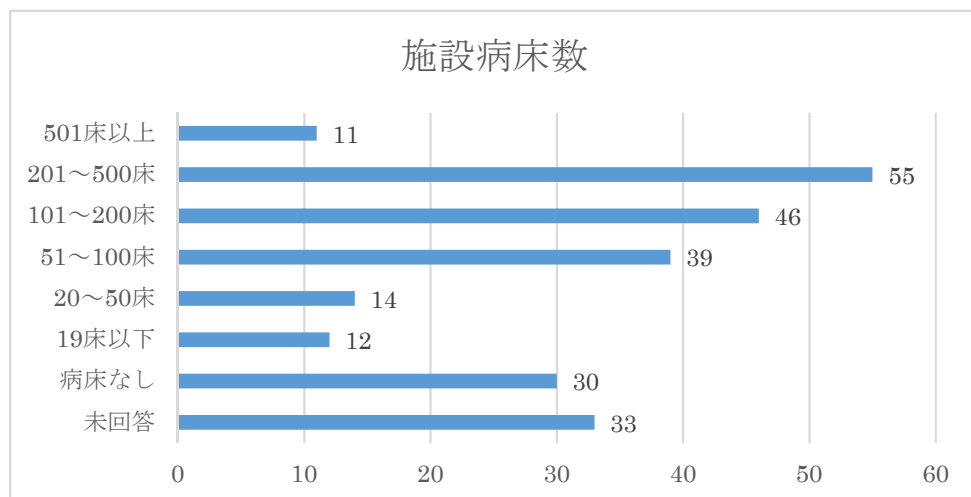
#### <施設分類>



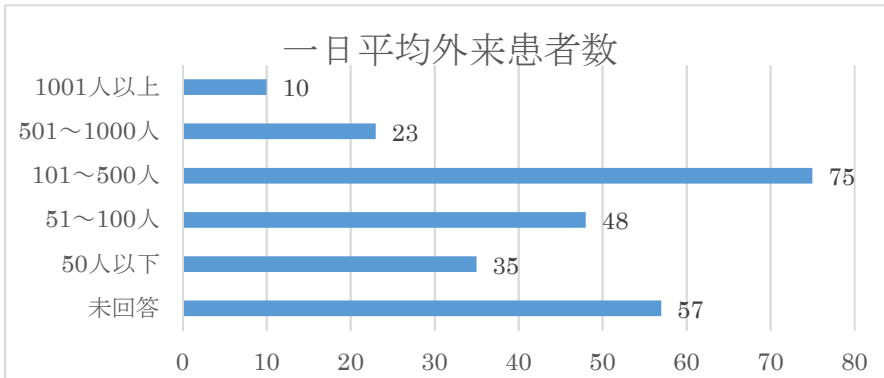
※その他 7 件の内訳

- ・その他と回答 6 件
- ・医療生協 1 件

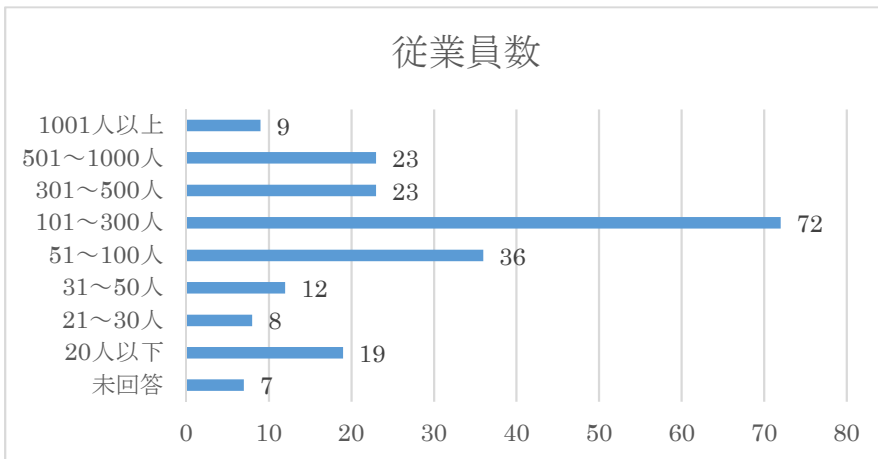
#### <施設病床数>



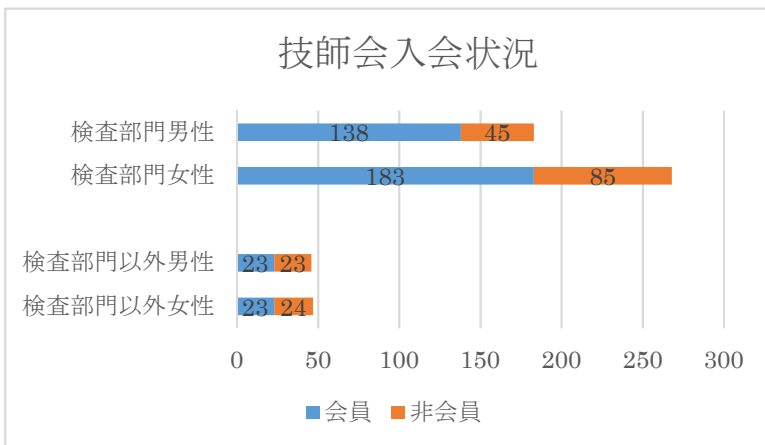
<一日平均外来患者数>



<従業員数>



<技師会入会状況>



(検査部門 入会率)

男性 : 75.4%

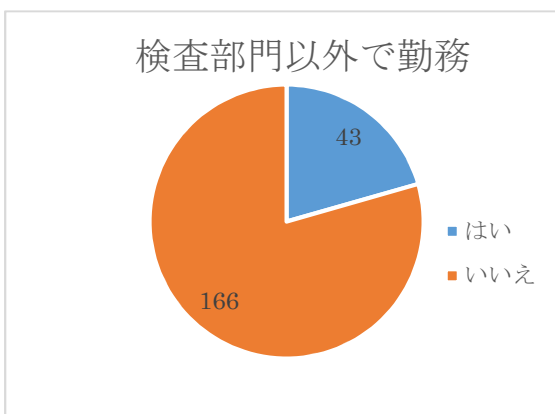
女性 : 68.3%

(検査部門以外 入会率)

男性 : 50.0%

女性 : 48.9%

<検査部門以外>

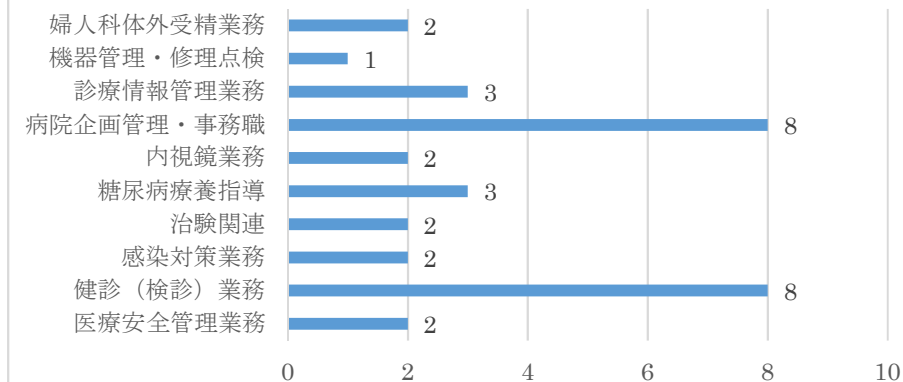


(検査部門以外で勤務している施設数)

○ 43 施設 (20.6%)

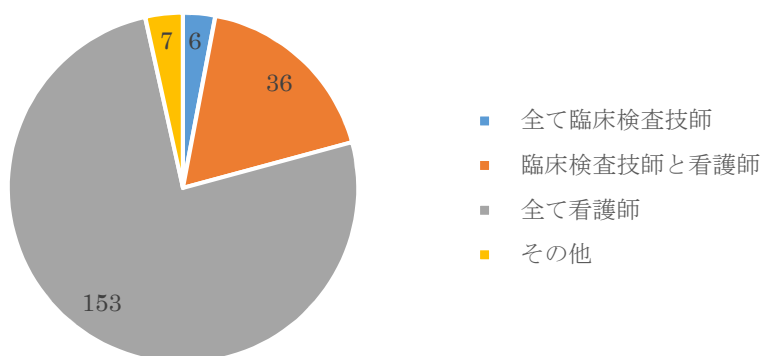
○ 臨床検査技師数 : 93 人 男性 : 46 人、女性 47 人

## 検査部門以外での業務内容



## <採血業務>

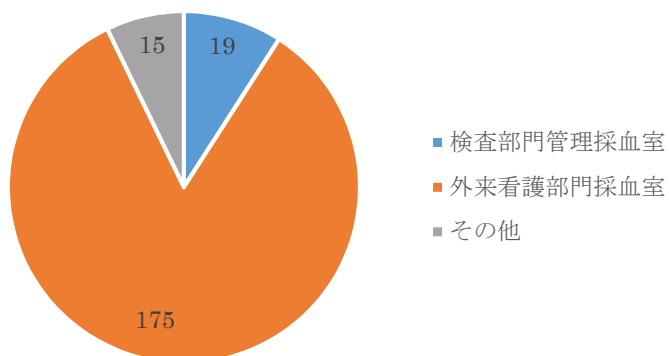
### 外来採血業務



(外来採血実施施設数)

- 全て臨床検査技師+看護師  
と共同：42件（20.8%）
- 全て看護師：153件  
（75.7%）

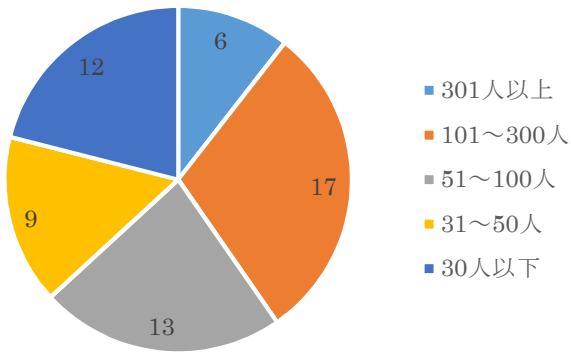
### 外来採血場所



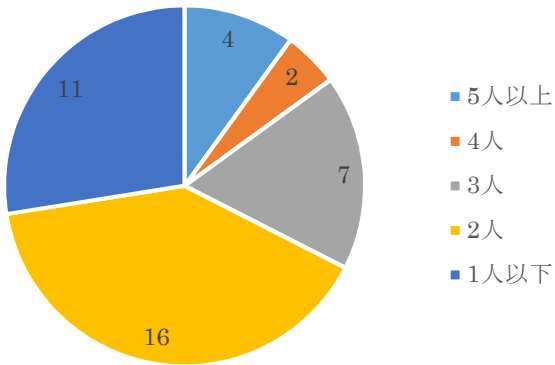
(外来採血場所)

- 検査部門管理採血室：19件（9.1%）
- 看護部門管理採血室：175件  
（83.7%）

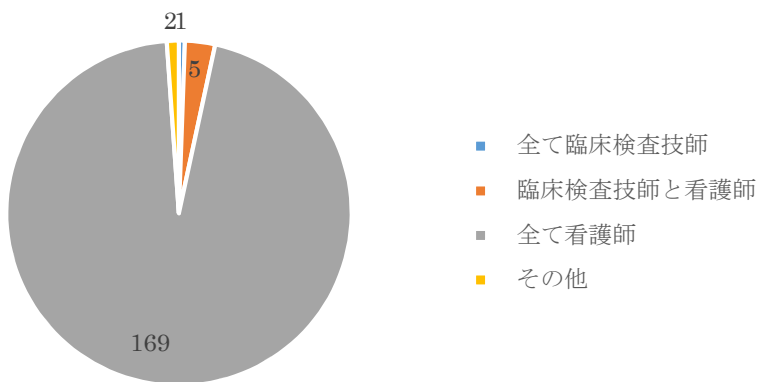
外来採血患者数



外来採血担当技師数



病棟採血業務



(病棟採血業務)

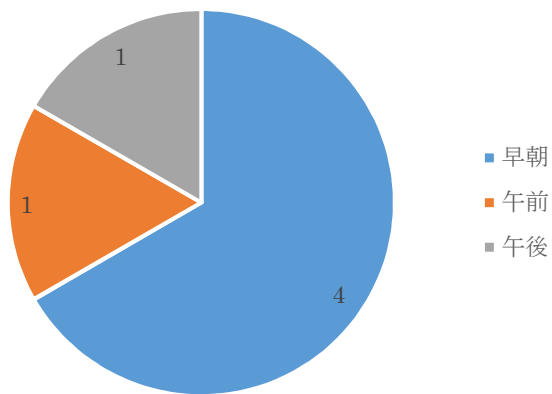
○ 全て臨床検査技師+看護師  
と共同：6件（3.4%）

○ 全て看護師：169件  
（95.5%）

病棟採血患者数？ （10~140人）/日 ※回答 6施設

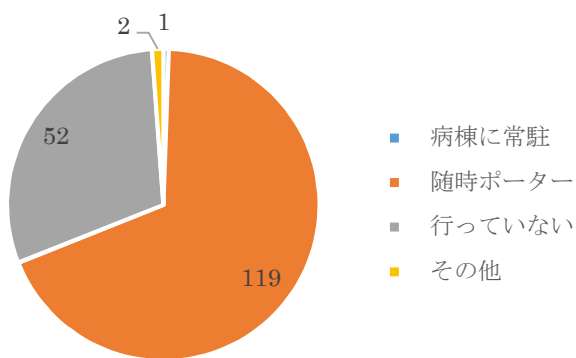
病棟採血業務担当技師数？ （1~6人）/日 ※回答 6施設

### 病棟採血時間帯



### <病棟業務>

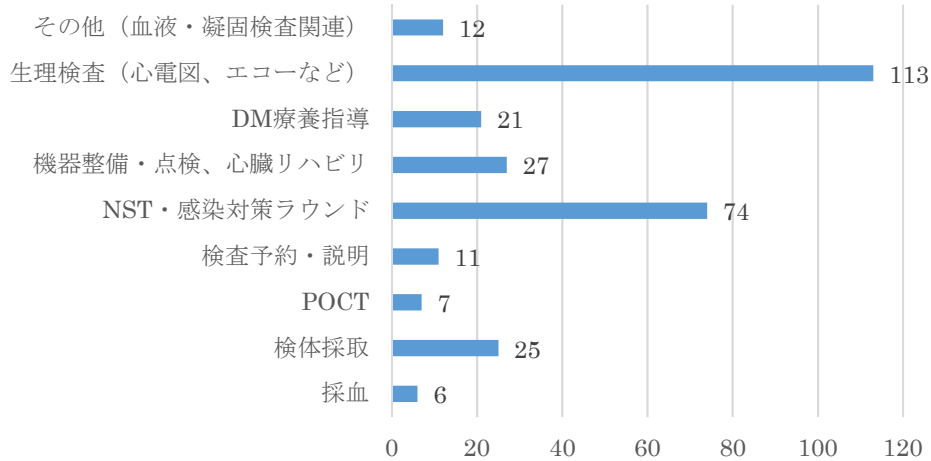
#### 病棟業務



(病棟業務)

- 病棟に常駐：1件
- 随時ポーター：119件（69.0%）
- 病棟業務は行っていない：52件（29.9%）

### 病棟業務内容



今後臨床検査技師が病棟に常駐する予定は？ ⇒ ない

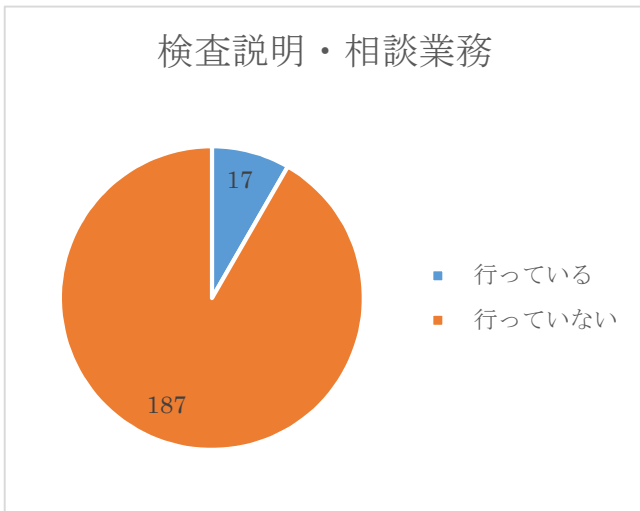
### <往診・在宅業務>

往診・在宅業務に臨床検査技師が関わっているか？ ⇒ 関わっている：1件 検討中：1件

往診・在宅でどのような業務を行っているか？ ⇒ 採血業務：1件

往診・在宅でどのような業務を検討中か？ ⇒ 不明

### <検査説明・相談業務>



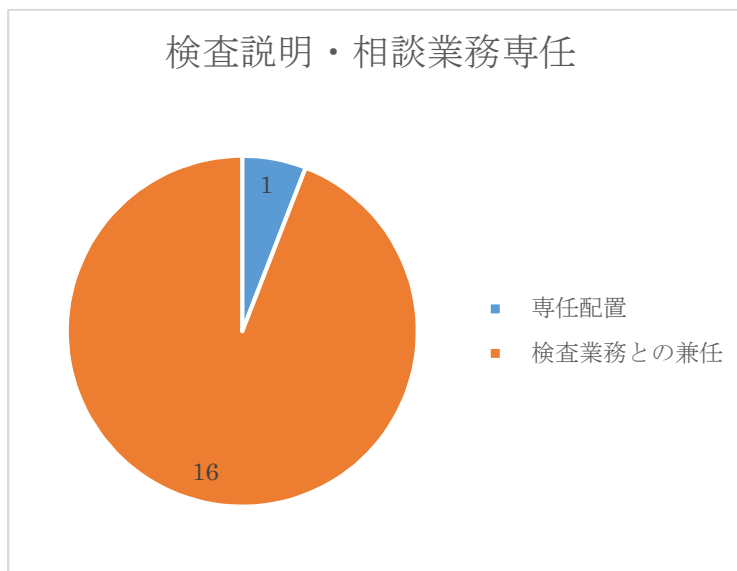
(検査説明・相談業務)

○ 行っている：17件 (8.3%)

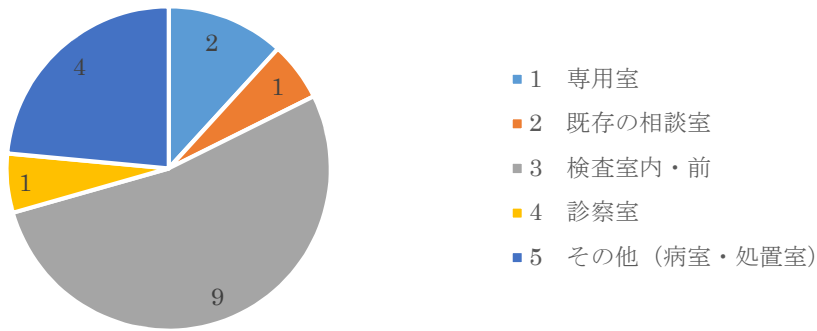
○ 行っていない：187件 (91.7%)

検査説明・相談業務 (具体的に)

- 心電図、ホルター心電図、脳波検査等の生理検査の説明
- 次回予約時の生理検査の内容や注意事項の説明
- 超音波検査 (スクリーニング時) の結果説明
- 採血検査項目の説明、結果の見方、目標値の説明
- DM 検査説明、SMBG の使用方法の説明
- 病棟で翌日の検査 (すべて) について説明 等

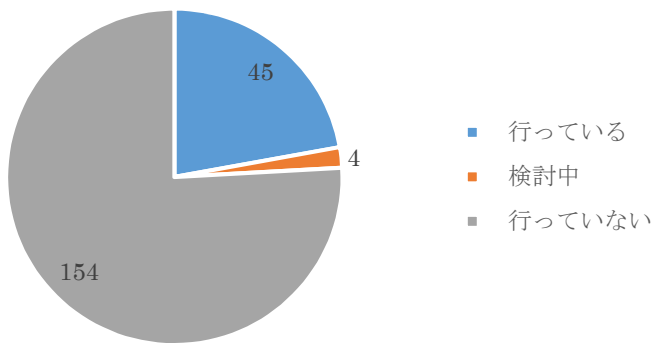


### 検査説明・相談場所



### <検体採取業務>

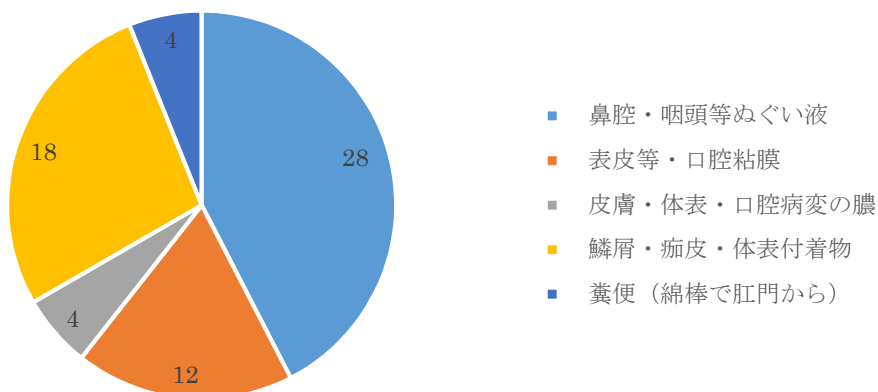
#### 検体採取業務



(検体採取業務)

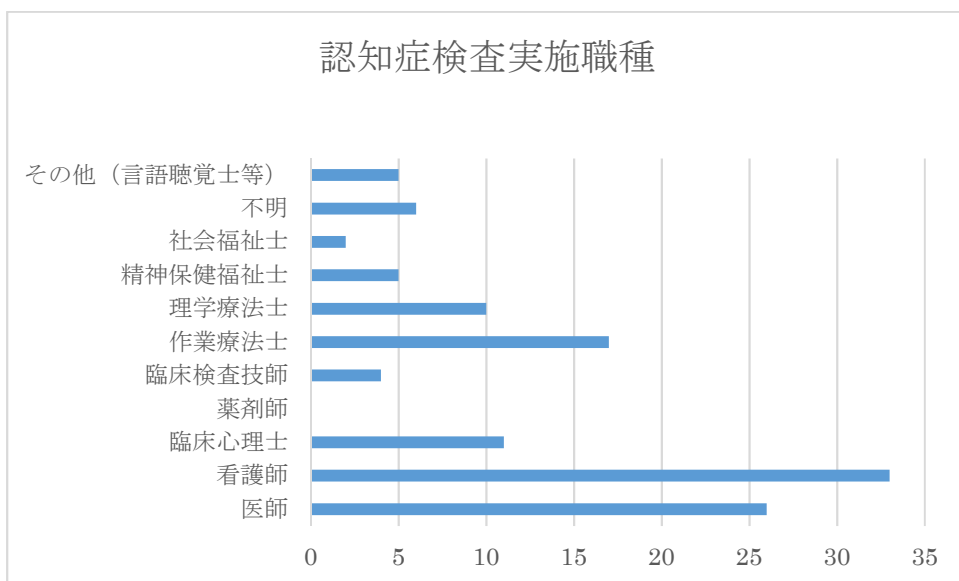
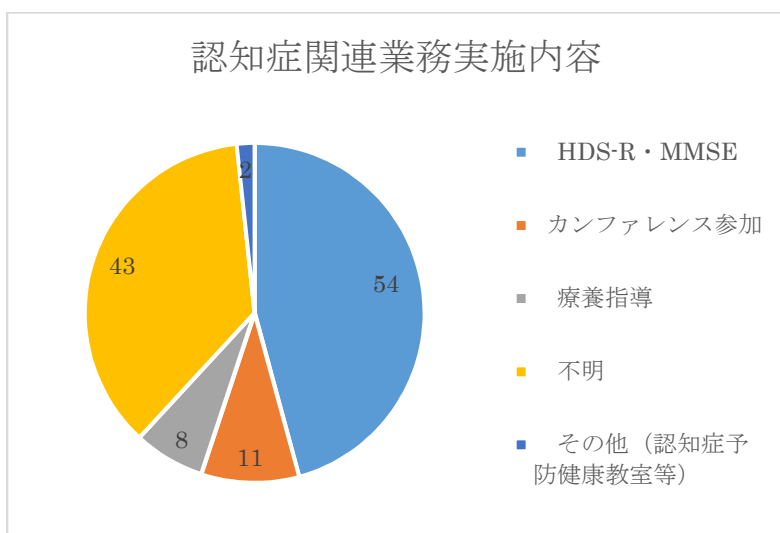
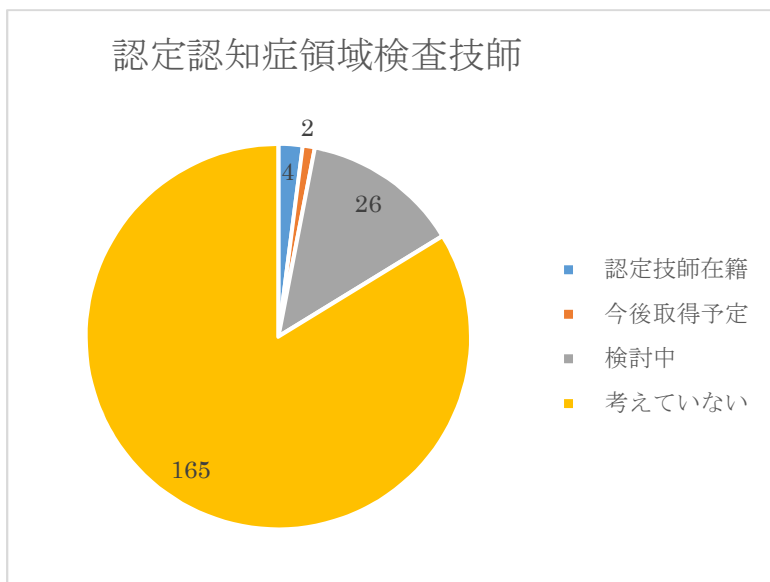
- 行っている : 45 件 (22.2%)
- 行っていない : 154 件 (75.9%)

### どの様な検体採取

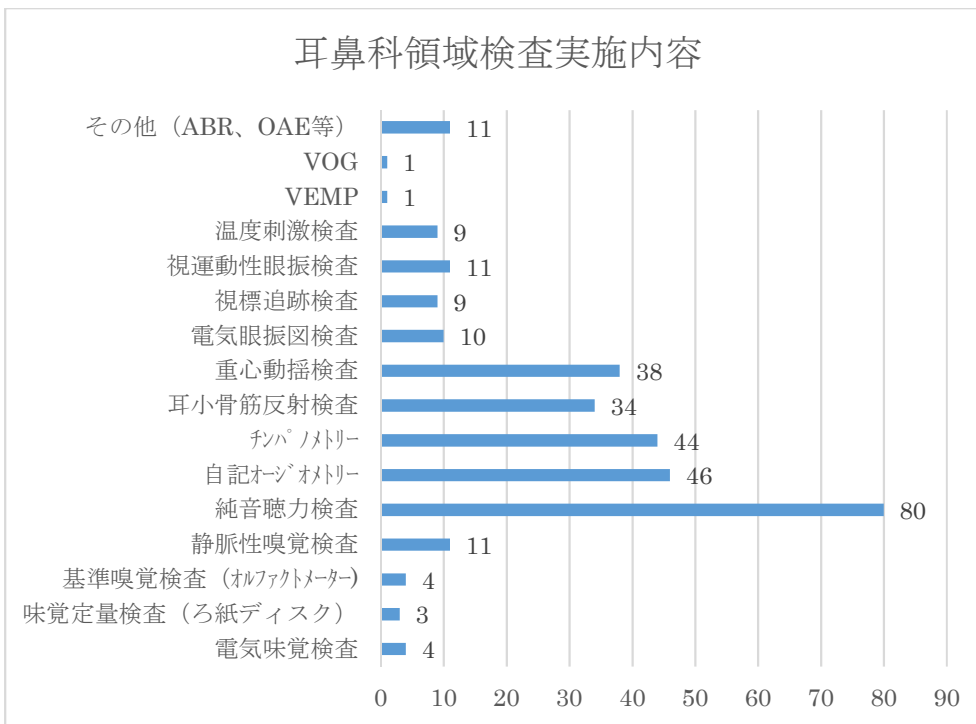




<認知症関連業務>



## <耳鼻科領域検査業務>



### 【考察】

#### Ⅱ、採血業務(外来)について

- 外来での採血業務を臨床検査技師が行っている施設は 20.8% (42 件)、すべて看護師が行っている施設は 75.7% (153 件) でした。検査部門管理の採血室 9.1% (19 件)、看護部門管理の採血室 83.7% (175 件) であり、臨床検査技師が積極的に採血業務へ職域を拡大するには、検査室に隣接した採血室の設置や既存の採血場所での看護師との連携を図ることが必要と思われます。

#### Ⅲ、採血業務(病棟)について

- 病棟での採血業務を臨床検査技師が行っている施設は 3.4% (6 件)、すべて看護師が行っている施設は 95.5% (169 件) を占め、ほとんどの施設が病棟採血に臨床検査技師が関わっておらず、病棟での採血時間帯が主に早朝であることから、業務体制上臨床検査技師が担当しにくいことが考えられます。

#### Ⅳ、病棟業務について

- 病棟に臨床検査技師が常駐している施設は 1 件のみ、随時出向している (ポーター) 施設は 119 件で、病棟業務を行っている施設は 69.0%、病棟業務を行っていない施設は 52 件 (29.9%) でした。  
臨床検査技師が病棟業務に関わっている施設は約 7 割あり、今後の医療連携に期待したい。
- 病棟での業務内容は、心電図や超音波検査などポーターでの生理検査が最も多く、次いで、NST・感染対策ラウンドとなっており、病棟業務において、専門技術者として知識をフル活用した臨床検査技師の役割は広がっていると思われます。

#### Ⅴ、往診・在宅業務について

- 往診・在宅医療に臨床検査技師が関わっている施設は 1 件で、採血業務でした。『在宅医療チームのための臨床検査』が今後注目されるよう、推進役である検査技師会が果たす役割は大きいと思われます。

#### Ⅵ、検査説明・相談業務について

- 検査説明・相談業務を臨床検査技師が行っている施設は 17 件（8.3%）であった。臨床検査技師が専任配置している施設は 1 件、検査業務と兼任している施設は 16 件でした。
- 主な業務内容は、心電図、ホルター心電図、脳波検査などの生理検査の内容・注意事項の説明、血液検査項目や結果の見方、目標値の説明、DM 検査・SMBG の使用方法などの説明でした。  
臨床検査技師の専門知識を活かした検査説明・相談業務の確立が急がれます。
- 検査説明・相談場所は検査室内・周辺が 9 件で最も多く、次いで病室・処置室でした。プライバシーに配慮した場所の設定が必要と思われます。

## Ⅶ、検体採取業務について

- 検体採取業務を臨床検査技師が行っている施設は 45 件（22.2%）でした。
- 検体採取は、鼻腔・咽頭等ぬぐい液の採取が最も多く 28 件（42.4%）、次いで、鱗屑・痂皮その他の体表の付着物の採取が 18 件（27.3%）、表皮等・口腔粘膜の採取が 12 件（18.2%）でした。  
検体採取等に関する厚労省指定講習会の受講を経て、インフルエンザ抗原検査等の検体採取を臨床検査技師が行う施設が増えてきていると思われます。

## Ⅷ、認知症関連業務について

- 認定認知症領域検査技師について、在籍している施設は 4 件（2.0%）、認定取得を予定・検討中の施設は 28 件（14.2%）、認定取得を考えていない施設は 165 件（83.8%）でした。
- 認知症関連業務内容は、認知症スクリーニング検査（HDS-R、NMSE）が 54 件（45.8%）で最も多く、次いでカンファレンスの参加が 11 件（9.3%）でした。しかし、わからないと答えた施設が 43 件（36.4%）あり、臨床検査技師が認知症関連業務内容を把握できていない状況が予想されます。
- 認知症スクリーニング検査を実施している職種は、看護師が最も多く 33 件（27.7%）、作業・理学療法士 27 件（22.7%）、医師 26 件（21.8%）、臨床検査技師 4 件（3.4%）でした。

## Ⅷ、耳鼻科領域の生理学的検査について

- 検査室で実施している耳鼻科領域検査では、最も多かったのは純音聴力検査で 80 件、自記オーディオメトリー46 件、チンパノメトリー44 件、耳小骨筋反射検査 34 件で、聴覚検査が多かった。
- 平衡機能検査では、重心動揺検査が 38 件と多かったが、設問にあった検査は少なからず実施されており、平成 27 年 4 月に臨床検査技師の業務である生理学的検査に追加された味覚検査・嗅覚検査と共に、実施施設が増えることを期待します。

## 【まとめ】

今回の業務実態調査では、臨床検査技師がチーム医療の一員として他職種との連携を推進しているかを調査し、現状の業務実態を把握することを目的としました。外来での採血業務や病棟での業務（ポーターでの生理検査、DM 療養指導、検査説明）等、職域拡大への取組みが徐々に浸透して来ていますが、まだまだ検査室内での業務に留まっているのが現状です。

日臨技は、日本医学検査学会で、『2025 年に向けての“決断”とは』というテーマで、チーム医療という切り口から検査体制の再構築と技師自らの自己改革を通じて患者様のそばにいかなくてはならない！と訴えています。北臨技では、今後も、「多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会」、「臨床検査改革セミナー」、「認知症対応力向上講習会」、「検査説明・相談ができる臨床検査技師養成講習会」等を企画開催していきます。今回の調査結果を生かし、会員のみなさまと共に一層工夫努力していきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。